

授業名称	アカデミック・リサーチ			科目コード	PEPA1106L
実施方法	オンライン			科目コード	PEPA1106L
担当教員	オムニバス	科目区分	基礎科目	単位数	2単位
配当年次	1年次	開講学期	前期	曜日	火A
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業の目的は、履修者が社会構想大学院大学の専門職学位課程において、修士論文相当の最終成果物を作成するにあたり必要となるアカデミック・スキルズを身につけることにある。社会人学生が大学院において効率的に実りある学びを得るためには、これまでに蓄積された学術知にアクセスし、それらを読み解き、自ら新たな知を生み出し、他者に伝達するための一連の能力を高い水準で有することが必要不可欠である。</p> <p>本授業ではまず「研究」や「調査」とはいかなる営みか整理し、それらを支える思考法を学び、そのうえで文献調査の技法や、アカデミックコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につけていく。併せて、適切な倫理性を備えた研究計画を立案するための基礎的な考え方を習得する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 履修者が「研究」や「調査」といった概念や、その前提となる思考法・倫理について説明できるようになる。 履修者が書籍や論文といった学術的リソースを利活用できるようになる。 履修者がアカデミックなコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につける。 					
授業計画				授業外の学習	
第1週	(第1講／橋本純次) 研究とはなにか、調査とはなにか：オリエンテーション	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)		
第2週	(第2・3講／橋本純次) 論理的思考とデザイン思考：高度専門職業人の基礎となる世界の捉え方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)		
第3週	(第4・5講／齋藤崇徳) 文献調査の技法：学術情報を体系的に検索する方法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)		
第4週	(第6・7講／齋藤崇徳) クリティカル・リーディングの基礎と実践：文献レビューのための読書法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)		
第5週	(第8・9講／大谷晃) アカデミック・ライティングの基礎	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)		
第6週	(第10・11講／全教員) アカデミック・ライティング演習：パラグラフ・ライティングの実践	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (6h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)		
第7週	(第12・13講／橋本純次) アカデミック・プレゼンテーションの基礎と実践：研究内容を伝えるコミュニケーション	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)		
第8週	(第14・15講／富井久義) 研究計画と研究倫理：調査依頼状にあらわれるリサーチ・デザインと調査倫理	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)		
OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内課題のブラッシュアップ (2h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。併せて、アカデミックな方法論を履修者全体に内在化する観点から、いくつかのテーマでは課題へのフィードバックを全体で共有しながら授業を進める。</p>					
教科書・参考書					
参考書として以下3点を挙げる。履修者の状況に応じていずれかを手元に置くことが望ましい。					

- 戸田山和久 (2022) 『最新版 論文の教室』, NHK 出版.
- 鹿島茂 (2003) 『勝つための論文の書き方』, 文藝春秋.
- ウェイン・ブース (2018) 『リサーチの技法』, ソシム.

評価方法

- ① 毎回の授業でのディスカッションへの貢献とコメントペーパーの提出
 - ② 各回で課せられる課題の提出
 - ③ 最終課題の提出
- 以上, ① (40%), ② (30%), ③ (30%) の総合評価により判定する。

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え/2025年度科目との読替え

2025年度科目名：実践研究法 I

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	—	—	—	○

授業名称	実践と理論の融合				
実施方法	ハイフレックス	科目コード	PEPC2302S		
担当教員	川山 竜二	科目区分	専門科目	単位数	2単位
配当年次	2年次	開講学期	後期	曜日	土A(3・4限)
年間開講数	1回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業の目的は、専門職大学院の制度目的として掲げられている「理論と実践の融合」について、その意味内容を概念的に検討し、履修者一人ひとりが自らの実践経験に即して理解・再定義できるようになることである。単に理論を実践に適用する、あるいは実践を事後的に振り返るといった理解にとどまらず、理論と実践の関係そのものを問い直すことを本授業の中心的課題とする。</p> <p>とくに本授業では、実践と理論を媒介する新たな理論枠組みとしての「実践の理論」に着目し、「実践」「理論」「実践知」「省察」などの諸概念を検討することを通じて、実践をどのように捉え、いかに理論として語りうるのかを考究する。そのうえで、履修者各自の問題関心にもとづき、「実践の理論化」と「理論の実践化」という往還のプロセスを経験的・理論的に検討する。</p> <p>本授業を通じて、履修者が自らの実践を理論的に説明し、理論の射程と限界を踏まえたいうで、実践の場に対して根拠ある提言を行うための思考枠組みを獲得することを目指す。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 履修者が実践と理論を捉えるための概念やモデルを理解し、自らの言葉で実践を論理的に説明することができる。 履修者が「理論」と呼ばれるものの構造や機能を理解し、理論と呼ばれるものの射程と限界を踏まえて比較検討することができる。 履修者が「実践の理論」の基本的な概念について、自分の具体的な実務経験等と結びつけて説明することができる。 					
授業計画				授業外の学習	
第1週	(第01講) Positioning for the Journey — 理論と実践をめぐる探究の射程			事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く(3h)
対面有/ OL				事後	コメントペーパーの提出(1h)
第2週	(第02講) 実践と理論をめぐる基本概念① 暗黙知・形式知・実践知 (第03講) 実践と理論をめぐる基本概念② 「知ること」と「行うこと」の分断はいかに生じたか			事前	事前配布資料を読む(3h)
対面有/ OL				事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第3週	(第04講) 実践を捉える① 省察(リフレクション)という思考装置 (第05講) 実践を捉える② 実践知の哲学的基盤 — アリストテレス			事前	事前配布資料を読む(3h)
対面有/ OL				事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第4週	(第06講) 行為・意図・理由 アンスコムから考える実践の記述可能性 (第07講) 実践を概念化する 実践を「語れるもの」にするための条件			事前	事前配布資料を読む(3h)
対面有/ OL				事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第5週	(第08講) 理論とは何か① 理論の構造・機能・射程 (第09講) 理論とは何か② 中範囲理論と特定状況理論			事前	事前配布資料を読む(3h)
対面有/ OL				事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第6週	(第10講) 実践の理論① プラグマティズムから考える理論と実践 (第11講) 実践の理論② 「実践の理論」という枠組み			事前	事前配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h)
対面有/ OL				事後	総括討論に向けた資料作成(2h) コメントペーパーの提出(1h)
第7週	(第12講) 実践と理論の往還① 実践の理論化 (第13講) 実践と理論の往還② 理論の実践化			事前	事前配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
対面有/ OL				事後	総括討論に向けた資料作成(3h) コメントペーパーの提出(1h)

第8週	(第14講/第15講) 総括討論 私にとっての「理論と実践の融合」	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)		
対面有/ OL		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。</p> <p>また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖ 実務家教員 COE プロジェクト (2021) 『実務家教員の理論と実践』、社会情報大学院大学出版部。 ❖ G.E.M.アンスコム (2022) 『インテンション：行為と実践知の哲学』、岩波書店。 ❖ A.F.ファーマン (2005) 『しろうと理論——日常性の社会心理学』、北大路書房。 ❖ A.クラーク (2005) 『理論心理学の方法——論理・哲学的アプローチ』、北大路書房。 ❖ アリストテレス 『ニコマコス倫理学』、光文社古典新訳文庫ほか。 ❖ 市川伸一 (2004) 『科学としての心理学——理論とは何か？なぜ必要か？どう構築するか？』、培風館。 ❖ 金井壽宏・楠見孝 (2012) 『実践知——エキスパートの知性』、有斐閣。 ❖ 野中郁次郎・紺野登 (2003) 『知識創造の方法論——ナレッジワーカーの技法』、東洋経済新報社。 					
評価方法					
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」 (35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 					
その他の重要事項					
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖ メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。 ❖ 授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること (予約優先)。 					
2022年度科目との読替え/2025年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	—	—	

授業名称	リベラルアーツ概論 I			科目区分	基礎科目
授業テーマ	専門を超える「知の OS」			科目コード	SDPA1113L
担当教員	下村 智典	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が俯瞰的な視野に立って社会を構想する力を養成することである。「構想」するためには、事象や対象をさまざまな角度から眺め、それらの本質に立ち返って見つめ直す思惟が求められる。むしろ、「構想」すること自体が社会の本質を問うことと不可分であるとさえ言いうるだろう。したがって、本授業では、「構想」することそれ自体、あるいは「つくること」それ自体を問い直し、社会そのものの在り方を哲学的・思想的に考察することによって、履修者が自らの社会構想のための視座を獲得することを目指す。

到達目標

- ① 自らの社会構想を考えるうえでの拠り所となる哲学や思想を明確化することができる。
- ② 社会科学系のリベラルアーツをもとに、専門を超えた知見で社会を捉えることができる。
- ③ 「構想」することそれ自体について、俯瞰的・根源的に理解することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 （第 1 講）ガイダンス 授業の進め方についての説明を行なうとともに、社会構想のた	事前 シラバスを精読し、授業から想定される学びを自分に引き付けて展望する (3h)
対面有 めのリベラルアーツについて概観する	事後 授業内容を復習する (2h)
第 2 週 （第 2・3 講）「設計」としての「構想」① リベラル思想の「設計主義」と、保守思想の「反・設計主義」	事前 授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有 から、「構想（つくること）」について考える	事後 授業内容を復習する (3h)
第 3 週 （第 4・5 講）「設計」としての「構想」② 「イデアリズム（理想主義）」と「ニヒリズム（虚無主義）」を	事前 授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有 めぐる哲学と思想から、「構想（つくること）」について考える	事後 授業内容を復習する (3h)
第 4 週 （第 6・7 講）「プロダクション」としての「構想」① 現代文明における「経済成長主義」や「イノベーション」	事前 授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有 をめぐる思想から、「構想（つくること）」について考える	事後 授業内容を復習する (3h)
第 5 週 （第 8・9 講）「プロダクション」としての「構想」② 「何かを生み出すこと（ポイエーシス）」「制作知（テクネー）」	事前 授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有 「技術（アート）」をめぐる哲学と思想から、「構想（つくること）」について考える	事後 授業内容を復習する (3h)
第 6 週 （第 10・11 講）「構想」をめぐる西欧と日本① 「つくる」「うむ」「なる」という観点で西欧と日本を対置させ、	事前 授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有 「構想（つくること）」について考える	事後 授業内容を復習する (3h)
第 7 週 （第 12・13 講）「構想」をめぐる西欧と日本②	事前 授業のキーワードに基づいて予習する (2h)

対面有	前回同様、「つくる」「うむ」「なる」という観点で西欧と日本を対置させ、「構想（つくること）」について考える	事後	授業内容を復習する（3h）			
第8週	（第14・15講）授業全体の総括としての発表と討論	事前	発表の準備をする（10h）			
対面有	授業で扱った内容全体を踏まえて、自分が関心を持ったテーマについて発表し、全体で質疑応答を行なう	事後	最終レポートを作成する（15h）			
授業の進め方と方法						
<ul style="list-style-type: none"> ● 本授業は、授業前半を講義形式で行ない、授業後半はディスカッション形式で行なう。 ● 毎回の授業の最後にコメントペーパーを提出する。 ● 第8週に、「自らの社会構想を考えるうえでの拠り所となる哲学や思想」について各履修者が発表し、全体で質疑応答を行なう。また、その発表内容を最終レポートに仕上げ提出する。 						
教科書・参考書						
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書は、佐伯啓思（2020年）『近代の虚妄——現代文明論序説』東洋経済新報社。</p> <p>その他の参考書については、随時、授業内で紹介する。</p>						
評価方法						
<ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッションへの参加およびコメントペーパーの内容（50%） ● 第8週の発表内容および最終レポートの内容（50%） 						
その他の重要事項						
● 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—